

成田 歴史 玉手箱

●42回●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。

福田聖公会

県下最古の農村教会



福田教会の創業者 飯田栄次郎

国道408号線の下福田バス停から旧県道沿いを北に歩くと礼拝堂が見えます。明治20年、飯田栄次郎によって設立された千葉県下最古のキリスト教会「日本聖公会福田教会」です。

栄次郎は嘉永4年(1851)、旧幕臣山縣信統の次男として江戸に生まれました。10代後半徳川幕府の陸軍生徒となりフランス式歩兵教練を学び軍人としての道を歩み始めた明治6年、山縣家と血縁関係にあった松崎村の宮田七右衛門の紹介で、下福田村の豪農飯田家の長女知可と結婚し入婿、静かな農村で農業に従事することになりました。

ところが明治10年、西南戦争が起こると再び軍人になることを決意し上京。実家を訪れた折り、既に洗礼を受けていた実兄の山縣与根二から入信の勧めを受けたのがきっかけで、軍人から一転キリスト教伝道者への道を歩み出します。下福田の自宅で夜学塾を開きながら伝道を開始。明治14年、栄次郎の長男・長女が洗礼を受け、下福田伝道の記念すべき「初穂」=教会活動の開始でした。ところがキリスト教解禁から日も浅く、またキリスト教に対する迫害や村人からの反対もあり、下福田での伝道を一時断念し成田を去ったのです。

明治10年代後半になると西洋文化の浸透とともにキリスト教への関心が高まり、下福田の若者たちの間でも自主的に集会が開かれるようになりました。明治20年、栄次郎は彼らの求めに応じ下福田に帰省し、自宅を仮会堂として福田教会を創立。翌21年8月には萱葺きの会堂(現在の礼拝堂は昭和10年に移転)を建立しました。以来、県下最古の教会として現在にいらっています。

ところで、栄次郎の曾孫にあたる飯田栄さん(下福田)宅には、栄次郎が軍人時代に出会い、師と仰いだ勝海舟直筆の

(明治26年、写真はいずれも飯田栄氏提供)



書が今も残されています。掛け軸には新約聖書『ヨハネによる福音書の第3章16節』の中の一節 神愛世其至以其獨生之子賜之 俾凡信之者免沈淪而得永生 壬辰之秋飯田氏之囑 海舟(神は其のひとり子を与えてくださったほどこの世を愛して下さった。それは御子を信じる者が滅びないで永遠の命を得るためである。明治25年の秋 飯田氏これを囑む 海舟)と、漢文で書かれています。時に海舟70歳、栄次郎40歳でした。

福田教会は一農村に深く根を下ろしたわが国のキリスト教の歴史の中でも稀有な教会として120年以上もの歴史を刻んでいます。

栄次郎の依頼で勝海舟が書いた新約聖書の一節



編集後記

本号の表紙にご登場願ったのは中台の宮崎文雄・カツさんご夫妻です。市民農園の収穫祭を取材に行った際、仲良く落花生掘りをされていたのを見て思わず声を掛けてパチリ。こちらもうれしくなるような笑顔でした。気分良く取材を終え、

買い物をしていると足元に不気味な揺れ。新潟県中越地震発生。市では直ちに物資を届けるとともに、義援金を募る支援活動(2ページ)を開始しました。被災地にも表紙のような光景が一日も早く戻ることを祈らずにはいられません。